

世界初出展のMR30による自動生産システム「ICF-V」など最新鋭機を展示
IPF JAPAN 2017 (国際プラスチックフェア)に出展



IPF JAPAN 2017当社ブース

2017年10月24日から5日間、幕張メッセで開催された「IPF JAPAN 2017 (国際プラスチックフェア)」に出展しました。今回は“V-LINE®が切り開く新たなソリューション”をテーマに、当社独自のV-LINE®方式を採用した様々な最新鋭射出成形機を展示しました。射出成形の自動化システム「ICF-V」を初出展したほか、全電動射出成形機のMSシリーズや大型車載部品向けの成形機、2材成形など、ものづくりを支援する最新技術を提案し、多くのお客様に実感していただきました。

ソディックの現場から

射出成形のIoTを具現化したスマートファクトリー「ICF-V」

Sodick-IoT、MR30により実現した自動生産システムについてご紹介します。

■ ICF-V*とは？

「ICF-V」は射出成形のIoTを具現化した小さな最強スマートファクトリーです。ホストPCと複数台のMR30(金属3Dプリンタで製造した金型専用射出成形機)、自動機をネットワークでつないだシステムを構築。カセット金型の交換を自動で行い、異なる成形品の自動生産が可能となります。

*ICF-V=Injection molding Cell Factory by V-LINE® system



■ ICF-Vの特徴は？

ICF-Vは、システム全体を管理するホストPCのアプリケーションである「ICF-V Scheduler」、生産セルシステム「MR30」、カセット型の受け渡しを行う「Cassette Stocker」で構成されます。

「何を(必要な成形品)」「いくつ(必要個数)」「いつまでに(希望納期)」の3つを入力することで、自動的に生産計画をスケジュールし、その生産計画に沿って自動的に成形品を生産します。

■ どんな効果が期待できますか？

ICF-Vは、ネットワークへ接続された機械の各種情報を活用し、監視、保守、制御、分析などを実行。周辺機器情報を一元管理できるため、材料の投入から成形品完了までの工程を見える化でき、更なる生産性向上を実現します。